

令和7年12月25日
兵庫県企画部万博推進局

1 SDGs体験型地域プログラムの第十次認定について

認定に当たっての考え方

- ① プレイヤー自身が発信することも重要視しているため、意欲があるものを幅広く認定。
 - 意欲が有る限り、県が伴走型で支援を行うことが基本姿勢。
 - 認定基準に未達の項目は、原則、磨き上げで対応。足りていない基準として、認定通知で明記。
- ② 支援の内容が定まらないもののみ、認定を見送る。
- ③ プログラムの継続や県と協力した取組が困難になった場合には、認定を取消す可能性あり。

1. 認定プログラムの構成

(1) 基準を満たしたものを、全て認定する。

- ①ひょうごフィールドパビリオンの展開趣旨にふさわしいか
 - ア) 各地域に根差したストーリーや稀少性、独自性など
 - イ) 地域や社会の諸課題を解決し、未来志向型の成果を探求
 - ウ) 事業の継続性や地域の持続可能性
- ②プログラムのブラッシュアップや周辺他プログラムとの連携
- ③社会通念上、懸念があるか。

(2) 基準を満たしたものを、プレミアとして選定

『各地域の風土・文化との親和性』や『事業の持続可能性』から地域の核となるもの

(3) 未達の項目があるプログラム

『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるもの

2. 認定外・対話を継続して再チャレンジ可能

第十次認定のプログラム概要（事務局案）

□第十次認定対象プログラム：

令和7年4月14日～令和7年11月までに応募のあったプログラムの**5件が対象**

【第十次認定プログラム】

認定：3件（合計270件）

※既認定プログラムのうち、1プログラムが辞退。

認定を見送る：2件

地域別件数

地域	件数(合計)
摂津	-(69)
播磨	3(101)
但馬	-1(43)
丹波	-(27)
淡路	-(30)

分野別件数

分野	件数(合計)
震災復興	-(7)
自然・環境	-1(65)
農林水産	-(41)
食	-(25)
経済・地場産業	-(59)
文化・芸術	3(73)

- 地域に根ざしたストーリー等がない

(1)認定プログラム(抜粋)

認定プログラム（抜粋）

文化・芸術



酒樽胴太鼓を響かせ、日本文化や酒米の王様「山田錦」を感じる（三木市）

【発信できるテーマ性】

- 三木市は、日本一の酒米「山田錦」の生産地として知られている。その「山田錦」を使用して造られた日本酒の製造過程で実際に使われた酒樽を再活用し、誕生したのが「酒樽胴太鼓」です。制作には、三木市の特産品である高品質な鉢を用いている。
- この太鼓で奏でるのは、播州三大祭りの一つ「三木秋祭り」で響き渡る伝統的なリズム。参加者は、地域の祭り文化を象徴するこのリズムを実際に演奏する体験ができる。
- 本プログラムは、酒樽の再利用による太鼓づくりから、伝統的な祭りの音を奏でる演奏体験まで、三木の歴史・文化・職人技に触ることができ、地域の魅力を味わえる貴重な機会な体験となっている。

概要：三木市特産の酒米「山田錦」で造られた日本酒を実際に仕込んだ酒樽を再利用して作られた「酒樽胴太鼓」の演奏を鑑賞及び体験。

実施主体：@Don!!



▲酒樽胴太鼓



▲酒樽胴太鼓



▲酒樽胴太鼓を模したワークショップ用作品

認定プログラム（抜粋）

文化・芸術



山伏の寺伽耶院で歴史ある伝統を知る（三木市）

【発信できるテーマ性】

- 約1,300年の歴史を誇る修験道の聖地・伽耶院は、山岳信仰と仏教が融合した修験道の中心として発展してきた。その厳かな環境で行われる山伏の修行は、自然と共生し、祈りを捧げることで心身を鍛え、日本古来の精神文化を今に伝える象徴である。
- ほら貝吹きや護摩行、写経といった象徴的な修行を簡易に体験することで、参加者は修験道の歴史や精神文化を体感し、その背景にある自然との共生や祈りの意味を理解し、地域文化の価値を再認識できる。
- このプログラムでは、ほら貝吹きや護摩行、写経など、山伏の修行を簡易に体験しながら、その意味や歴史を学ぶことができる。

概要：住職による国指定重要文化財の紹介をはじめ、ほら貝吹きなどの山伏体験をはじめ護摩行や写経体験を四季を感じながら体験できるツアー。

実施主体：伽耶院



▲伽耶院入口



▲護摩行実施場所



▲体験で使用するほら貝

第十次認定プログラム（事務局案） 一覧：3件

プログラムの名称	実施主体	地域
<播磨>		
1 山伏の寺伽耶院で歴史ある伝統を知る	伽耶院	三木市
2 藍染発祥の地！三木市であなただけの染物体験を	竹岱亭	三木市
3 酒樽胴太鼓を響かせ、日本文化や酒米の王様「山田錦」感じる	@Don !!	三木市